

令和 6（2024）年度
自己点検評価報告書

令和 7（2025）年 11 月

社会福祉法人尾道さつき会
尾道福祉専門学校

1. 教育方針

地域社会から親しまれ支えられ、地域に貢献できる専門学校として次の方針を基本とする。

(1) 教育内容の充実

介護福祉に関する専門的な知識・技術を教授し、介護福祉士の資格取得可能な学生を養成する。

(2) 介護現場に即した人材の育成

福祉現場が直面している課題を反映した教育内容や介護職員の声を生かした教育を実施する。

(3) 福祉動向の把握及び理解

関係機関との連携を深め、施策の動向を収集することで、最先端の介護現場にも通用する学習内容を編成し、高齢者及び障害者福祉の向上に寄与できる学生を育成する。

(4) 地域貢献

地域や事業所の行事あるいは活動に参加する特別活動を充実し、社会性や自主性を育むとともに地域へ貢献できる学生を育成する。また、開かれた学校として施設を活用した住民の諸活動を支援して、地域福祉力の育成やコミュニティの活性化に貢献する。

2. 学校の教育目標

高校生及び社会人に選ばれる介護福祉士養成校を目指し、教育内容を見直すほか、本校の特色を積極的にアピールするため広報戦略を強化する。また、介護福祉士実務者研修等の資格取得支援の研修を開催し、広島県東部における介護職員養成の中心的な役割を果たす。

3. 重点目標

「体感しろ！～未来はもっと自由だ～」をコンセプトに、体験から学ぶ授業や行事の展開により学生の学びの多様性を創ると同時に、2026年度定員充足率85%確保(68名/80名定員・1学年34名)を到達目標におき、主に留学生及び職業訓練生獲得の整備を行う。また、教育機関が実施すべき新規事業の確立を目指す。

(1) 2025年度定員充足率57%の確保(46名/80名定員・1学年23名)

- ・2025年度の入学者を28名確保する。 → 実績：入学者25名(2025.4月)
- ・2025年度2年生26名維持する。 → 実績：24名(2025.4月)
- ・2025年度の退学者を3名以内にする。 → 実績：1年3名 2年2名(2025.11月)

(2) 新規事業の確立による収入増

- ・留学生ルートの確立 → 確立。2025年4月9名入国(内1名離脱)
- ・県事業関連の獲得 → 広島県事業2、尾道市事業1、広島県外国人人材協議会事業1
- ・介護アウトリーチ研修、西海協委託事業の開始 → 西海協からの介護導入講習を開始

(3) 学ぶ方法のバージョンアップ

- ・現場や地域での体験 → 実施中
- ・法人内勝因との顔の見える関係性の構築 → にしぎこの家、星の里新館を中心に実施
- ・学生育成アウトカムの可視化、共有・ICT化の検討 → 前者未実施・後者は実習記録ICT化の検討を進めた

4. 評価項目の達成及び取組状況

(1) 教育理念・目標

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3 やや不適切…2、不適切…1			
・学校の理念・目的・育成人材像は定められているか (専門分野の特性が明確になっているか)	4	③	2	1
・学校における職業教育の特色はあるか	4	③	2	1
・社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	4	③	2	1
・学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが学生・保護者等に 周知されているか	4	③	2	1
・各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか	4	③	2	1

① 現状

社会福祉法人尾道さつき会の学校運営の理念は「地域に親しまれ、支えられるとともに、地域に貢献できる専門学校づくり」であり、以下の目的が設定されている。

教育内容の充実

介護福祉に関する専門的な知識・技術を教授し、介護福祉士の取得が可能な学生を育成

介護現場に即した人材の育成

福祉現場が直面している課題を反映した教育内容や、介護職員の声を生かした教育を実施

福祉動向の把握及び理解

関係機関との連携を深め、早期に施策の動向を収集することで、福祉の実情を反映した学習内容を編成し、高齢者及び障害者福祉の向上に寄与できる学生を育成

地域貢献

地域や事業所の行事あるいは活動に参加する特別活動を充実し、社会性や自主性を育むとともに、県東部の唯一の専門学校として地域に貢献できる学生を育成

② 課題

介護現場に即した人材育成を明確にするため、介護現場との共同場面を多く持ちながら、まずは教職員が現場の現在のニーズを把握することが重要と考えている。また、同様に、様々な立場の方々とのつながりを持ち、多角的に介護福祉士養成について考える機会を持つことが大切と考えている。地域貢献としては、地域住民や専門職が活用できる研修センター的役割を創出するため、少しずつ地域とのつながりを持っている。

(2) 学校運営

評価項目	適切… 4、ほぼ適切… 3 やや不適切… 2、不適切… 1			
・目的等に沿った運営方針が策定されているか	4	③	2	1
・運営方針に沿った事業計画が策定されているか	4	③	2	1
・運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか	4	③	2	1
・人事、給与に関する規程等は整備されているか	4	③	2	1
・教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか	4	③	2	1
・業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	4	③	2	1
・教育活動等に関する情報公開が適切になされているか	④	3	2	1
・情報システム化等による業務の効率化が図られているか	4	③	2	1

① 現状

運営方針、事業計画については、毎年教職員間で協議を行ったうえで策定し、理事会に提出している。学校の運営については、教職員は校務分掌で役割を明確にし、実施している。協議事項は毎月2回開催している教職員会議等で十分協議したうえで、決定事項として情報の共有化も図っている。教育活動については当校のホームページ等により情報公開に努めている。

② 課題

コンプライアンス体制、情報システム化による業務の効率化の取り組みが急がれる。特に、事務業務の効率化が急務である。

(3) 教育活動

評価項目	適切… 4、ほぼ適切… 3 やや不適切… 2、不適切… 1			
・教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	④	3	2	1
・教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた学科の修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	④	3	2	1
・学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	④	3	2	1
・キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	4	③	2	1
・関連分野の企業・関係施設等や業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか	④	3	2	1
・関連分野における実践的な職業教育（産学連携によるインターンシップ、実技・実習等）が体系的に位置づけられているか	④	3	2	1
・授業評価の実施・評価体制はあるか	4	③	2	1
・職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか	4	③	2	1
・成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか	④	3	2	1
・資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	④	3	2	1
・人材育成目標の達成に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか	④	3	2	1
・関連分野における業界等との連携において優れた教員（本務・兼務含む）を確保するなどマネジメントが行われているか	4	③	2	1
・関連分野における先端的な知識・技能等を習得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか	4	③	2	1
・職員の能力開発のための研修等が行われているか	4	③	2	1

①現状

8月17日広島県医療介護総合確保事業 介護の魅力発信・イメージ改善事業として介護の魅力イベント「介護とそばに」の事務局としてかわり、尾道市高齢福祉課、ONOMICHI U2、尾道大学、尾道商業等、産学官民で実施した。学生は「介護の職業体験オノザニア」と銘打って、幼児、小中高生に向けて介護福祉士の職業を体験してもらう企画を運営し、実践的な学びにつながった。

12月17日星の里・にしごこの家忘年会で1年生が体操や踊りを利用者と楽しむ機会を得た。

1月30日認知症おのみち見守り訓練（西迫地区）に参加し、地域ぐるみで認知症の方や家族を見守り、住み慣れた地域で安心して暮らせるまちづくりに参画した。

2月16日、3月20日に西久保地区の住民主催のイベントに参画し、福祉の体験コーナー等を運営した。

②課題

学校が実施する授業評価の評価体制がなく、個人の知見に委ねる体制のまま運営しているため、学校教育実践のPDCA体制を作っていく必要がある。

(4) 学修成果

評価項目	適切… 4、ほぼ適切… 3 やや不適切… 2、不適切… 1			
・就職率の向上が図られているか	④	3	2	1
・資格取得率の向上が図られているか	④	3	2	1
・退学率の低減が図られているか	④	3	2	1
・卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	4	③	2	1
・卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	4	③	2	1

① 現状

2024年度の退学者は4名。退学理由は、進路変更3名、体力と学力がついていかない1名（委託訓練生）。また、2年間では履修が完了しなかった3名が3年次での履修を選択した。2024年度国家試験については、20名受験、18名が合格。また、全員福祉事業所に就職した。

② 課題

2023～2024年度において、3年次の履修を選択する学生が複数名いることから、退学者の防止につながったと同時に、学生個人のペースを尊重した学習の組み立てに繋がっている。

(5) 学生支援

評価項目	適切… 4、ほぼ適切… 3 やや不適切… 2、不適切… 1			
・進路・就職に関する支援体制は整備されているか	④	3	2	1
・学生相談に関する体制は整備されているか	④	3	2	1
・学生に対する経済的な支援体制は整備されているか	④	3	2	1
・学生の健康管理を担う組織体制はあるか	④	3	2	1
・課外活動に対する支援体制は整備されているか	④	3	2	1
・学生の生活環境への支援は行われているか	4	③	2	1
・保護者と適切に連携しているか	④	3	2	1
・卒業生への支援体制はあるか	④	3	2	1
・社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	④	3	2	1
・高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか	4	③	2	1

① 現状

2024 年度も広島県社会福祉協議会の協力のもと、就職応援ガイダンスを開催し、県東部の法人の職員から法人状況や採用条件の説明を受けたほか、就職後数年の若手職員から介護福祉士としての仕事内容等聞き、自分の進路を具体的に考える機会とした。

課外活動として、地域の理解や参加を目的とし、4月に法人内施設の利用者と桜の見物を実施。2年生が利用者の移動支援を行いながら、桜並木を歩き、声掛けをし、安全確認等を同時に行う技術を学ぶと同時に、共に楽しむことができた。また、全校生で尾道の特徴や楽しみを見つけたり、地域住民にインタビューを行う等、地域を知る体験の時間をもった。また、地域に出て、認知症の方の見守り訓練の実施に参加し、法人内外の介護関連事業所や入居者、地域住民の方々と共に実践的な課外活動となった。

②課題

様々な課題を抱える学生が増加していることから、精神障害や発達障害などに対して、教員も基本的な知識を習得する等理解を深め、保護者と協力して学生の生活全般を見守り、また学生の状況に応じた個別対応がより一層求められる。関係機関との連携も深めていく技術も必要である。

(6) 教育環境

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3 やや不適切…2、不適切…1			
・施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	④	3	2	1
・学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	4	③	2	1
・防災に対する体制は整備されているか	4	③	2	1

① 現状

2024 年度、法人本部が学校館内に移動したことに伴い、図書室を 207 教室に移設した。

② 課題

館内の空きスペースがあること、学生が自由にくつろげる場所がないこと等の課題が残っており、学生のために使用することを念頭に、次年度以降環境整備を行っていく。

また、校舎の老朽化により修繕箇所が年々増加しており、修繕費も含めて収支の再検討が必要。

(7) 学生の受入れ募集

評価項目	適切… 4、ほぼ適切… 3 やや不適切… 2、不適切… 1			
・学生募集活動は、適正に行われているか	4	③	2	1
・学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	4	③	2	1
・学納金は妥当なものとなっているか	4	③	2	1

① 現状

高校ガイダンスの回数を増やすことを目的に、広報会社を増加したが、ガイダンスで介護分野を希望する学生数が減少しており、入学数は伸び悩んだ。ただし、この状況は本校のみならず、県内外の養成校はいずれも同様の状況にあることから、我々の力が及ばない社会情勢が要因していることは明らかである。

② 課題

少子化が進む中で高卒の新入生を獲得するには限界があると認識している。そのため、留学生や社会人の入学生獲得にシフトすることは方向性としてはあっていると考えます。初の試みである留学生受入について、関係者や企業等との繋がりの中で達成に繋げることが重要。高卒新入生獲得に向け、学校の新しい取り組みや法人内外の介護現場の繋がりを強調した実践と情報発信のため、高校への定期訪問を確実に実施することが必要。

(8) 財務

評価項目	適切… 4、ほぼ適切… 3 やや不適切… 2、不適切… 1			
・中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	4	3	②	1
・予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	4	3	②	1
・財務について会計監査が適正に行われているか	4	③	2	1
・財務情報公開の体制整備はできているか	4	③	2	1

① 現状

2024 年度入学者は 22 名で、財務状況は下方状態である。早期に財務状況改善に向けた新たな事業展開が求められる。

② 課題

新たな事業として、技能実習生に対する介護導入講習、広島県からの受託事業（外国人介護福祉士資格取得支援指導者養成研修）を確実に実施すると同時に、実務者研修の安定的な運用方法の再検討が必要。

(9) 法令等の遵守

評価項目	適切… 4、ほぼ適切… 3 やや不適切… 2、不適切… 1			
・法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	④	3	2	1
・個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	4	③	2	1
・自己評価の実施と問題点の改善を行っているか	4	③	2	1
・自己評価結果を公開しているか	4	③	2	1

① 現状

専修学校設置基準等を遵守し、適正に運営している。個人情報の保護については学生から誓約書を取り遵守するよう努めている。自己評価については、学生アンケートなどを実施しながら振り返りをして、改善を心がけてきた他、この形式での自己評価からの課題について解決にむけて取り組みを実施している。

② 課題

自己評価結果をホームページで早急に公開する。

③ 特記事項

法令順守については、法人も強いコンプライアンス意識を持っており、学校でも常に意識化するよう努めている。

(10) 社会貢献・地域貢献

評価項目	適切… 4、ほぼ適切… 3 やや不適切… 2、不適切… 1			
・学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	④	3	2	1
・学生のボランティア活動を奨励、支援しているか	④	3	2	1
・地域に対する公開講座・教育訓練(公共職業訓練等を含む)の受託等を積極的に実施しているか	④	4	3	2 1

① 現状

昨年に引き続き、広島県医療介護総合確保事業を受託し、ICT・介護ロボット導入支援研修を開催、介護現場の職員の学びの機会を作ることができた。また、尾道市からの受託事業介護の魅力イベントの企画実施、地域における認知症見守り訓練の参加、久保地区のふれあい祭りへの参加等、学生が地域において主体的に活躍できる場を設けると同時に、地域のニーズに応える場が持てた。

また、吉和中学校生、長江中学校生、浦崎小学校児童への出前事業を実施したほか、広島県からの受託事業「外国人介護福祉士資格取得支援指導者養成研修」では集合研修、個別訪問研修を実施した。

② 課題

社会福祉法人立の養成校としての役割の一つに、地域のニーズに学校が出来ることを形にして応えることがあると考えている。この2年間で地域や地域の専門職との繋がりを強化してきたため、更には研修センター的な役割を創出できるよう検討していくことが必要。

③ 特記事項

広島県実習指導者講習会、広島県介護福祉士会の研修や取り組み、広島県介護支援専門員法定研修、尾道市介護支援専門員連絡協議会及び尾道市地域包括ケア連絡協議会の研修に関わっている。